

# がん治療の新たな選択肢

## 「がんゲノム医療」

遺伝子の異常を検査することで、一人一人のゲノム（遺伝情報）に合わせた薬剤の選定や効果的な治療を提供する「がんゲノム医療」。近年全国的に注目を集めており、佐賀県内においても、佐賀大学医学部附属病院が専門部門を設置するなど積極的に取り組んでおり、医療体制のさらなる拡充に向けて県とも連携しています。

がんゲノム医療の現状と今後の展望について、佐賀大学医学部附属病院がんセンターの荒金尚子センター長と、佐賀県健康福祉部の野田広医療統括監に伺いました。

佐賀県健康福祉部

野田 広 医療統括監

センター長

荒金 尚子 診療教授

**標準治療**

**がん遺伝子検査**  
大腸がん、乳がんなどの一部のがんでは、医師が必要と判断した場合に、1つまたはいくつかの遺伝子を調べ、診断したり、検査結果を基に薬を選んで治療することがすでに行われています。

標準治療がないがん、標準治療が終了したなどの場合

**がんゲノム医療**

ゲノム情報に基づく薬物療法  
(臨床試験など)

**がん遺伝子パネル検査**  
主にがんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ、検査結果を基に治療することができます。

**がんゲノム医療の治療イメージ**

乳がんの患者  
X遺伝子に変異あり  
Yという抗がん剤が効果あり(保険適用)

肺がんの患者  
X遺伝子に変異あり  
Yという抗がん剤が効果があるかもしれないので使う(保険適用なし)

乳がんの患者さんで、「X遺伝子に変異がある人にY抗がん剤が効果がある」とことがわかっていました。一方で肺がんの患者さんの遺伝子を調べてみて、X遺伝子に変異があった場合、Y抗がん剤を使えば効く可能性があるため使用を検討します。しかし、適した薬剤が見つかる患者さんの割合は10%と言われています。

「がんゲノム医療とは、そもそもどういったものなのでしょうか。」

**荒金** もともとがんというのは、遺伝子の異常が蓄積されて発症する病気です。その原因である遺伝子を見つけて、それに適した薬剤の選定など効果的な医療を提供するのが、がんゲノム医療です。従来のがんの薬物治療では、胃がんには胃がんの薬、大腸がんには大腸がんの薬という形で、がんが発症した臓器に合わせて使用する薬剤が決まっていたんです。しかし疾患が発生した臓器が同じでも、同じ薬がその患者さんに適しているとは限りません。がんゲノム医療では、患者さん一人一人の遺伝情報(ゲノム)をもと

「先進的ながんゲノム医療ですが、どのような課題がありますか。」

**荒金** まず一つ目は、実際に遺伝子異常に適した治療薬が見つかる確率を上げることです。がんゲノム医療の遺伝子パネル検査によって効果的な薬剤が見つかる可能性は、疾患によって異なり、今のところ全体の約10%といわれています。がんゲノム医療では、遺伝子情報のデータをもとにした新薬開発を国が先頭に立てて進めています。新たな治療薬が承認されれば、どんどん治療薬が見つ

「今後の展望や目標について教えてください。」

**荒金** これまでの治療上、同じ病気と診断された患者さんには同じ治療が行われてきました。がんゲノム医療では、患者さん一人ひとりの体質に合った治療が可能と

「がんゲノム医療の普及を促すために佐賀県としてどのような取り組みを行っていますか。」

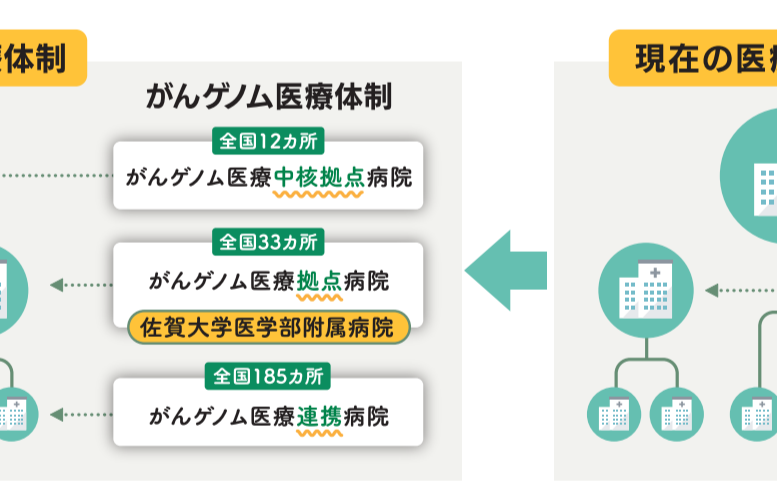
**野田** 国のがん対策推進基本計画のもとに、18年に第3次佐賀県がん対策推進計画を策定しました。計画に基づき、がんゲノム医療拠点病院の指定に向けた体制整備や専門家の育成に必要なサポートを実施しています。

**荒金** 人材育成は非常に重要な部分と考えています。当院のがんゲノム診療部門では、医師が新たに遺伝子専門医の資格を取得。さらにはがんゲノム医療コーディネーターの資格も、看護師含めて7人が取得しています。検査数の増加にも十分対応できるような医療体制を構築しています。

「がんゲノム医療の普及を促すために佐賀県としてどのような取り組みを行っていますか。」

**野田** 国のがん対策推進基本計画のもとに、18年に第3次佐賀県がん対策推進計画を策定しました。計画に基づき、がんゲノム医療拠点病院の指定に向けた体制整備や専門家の育成に必要なサポートを実施しています。

**荒金** 人材育成は非常に重要な部分と考えています。当院のがんゲノム診療部門では、医師が新たに遺伝子専門医の資格を取得。さらにはがんゲノム医療コーディネーターの資格も、看護師含めて7人が取得しています。検査数の増加にも十分対応できるような医療体制を構築しています。



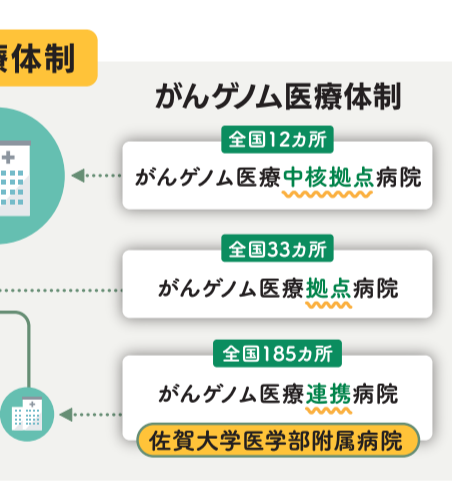
**「遺伝子検査をもとにした個々の患者に最適な治療」について教えてください。**

**野田** 現在、佐賀県内のがん死亡率は全国でもワーストレベルです。県としても胃がんや肺がん、大腸がん、女性特有の乳がんや子宮がんについては、検診による早期発見・早期治療を促しています。これらががんは治療法がある程度確立されているので、進行前に見つけて治療することで生存率が高くなります。しかし、すい臓がんや胆道がんなど、治療が困難な難治性がん等の死亡率は依然として高く、県内のがん死亡者数の約4割を占めています。こうしたがんへの効果的なアプローチとして、がんゲノム医療に注目しています。

「がんゲノム医療の普及を促すために佐賀県としてどのような取り組みを行っていますか。」

**野田** 国のがん対策推進基本計画のもとに、18年に第3次佐賀県がん対策推進計画を策定しました。計画に基づき、がんゲノム医療拠点病院の指定に向けた体制整備や専門家の育成に必要なサポートを実施しています。

**荒金** 人材育成は非常に重要な部分と考えています。当院のがんゲノム診療部門では、医師が新たに遺伝子専門医の資格を取得。さらにはがんゲノム医療コーディネーターの資格も、看護師含めて7人が取得しています。検査数の増加にも十分対応できるような医療体制を構築しています。



**「佐賀県内で完結できるがんゲノム医療の体制構築へ」**

「がんゲノム医療の普及を促すために佐賀県としてどのような取り組みを行っていますか。」

**野田** 国のがん対策推進基本計画のもとに、18年に第3次佐賀県がん対策推進計画を策定しました。計画に基づき、がんゲノム医療拠点病院の指定に向けた体制整備や専門家の育成に必要なサポートを実施しています。

**荒金** 人材育成は非常に重要な部分と考えています。当院のがんゲノム診療部門では、医師が新たに遺伝子専門医の資格を取得。さらにはがんゲノム医療コーディネーターの資格も、看護師含めて7人が取得しています。検査数の増加にも十分対応できるような医療体制を構築しています。

「がんゲノム医療の普及を促すために佐賀県としてどのような取り組みを行っていますか。」

**野田** 国のがん対策推進基本計画のもとに、18年に第3次佐賀県がん対策推進計画を策定しました。計画に基づき、がんゲノム医療拠点病院の指定に向けた体制整備や専門家の育成に必要なサポートを実施しています。

**荒金** 人材育成は非常に重要な部分と考えています。当院のがんゲノム診療部門では、医師が新たに遺伝子専門医の資格を取得。さらにはがんゲノム医療コーディネーターの資格も、看護師含めて7人が取得しています。検査数の増加にも十分対応できるような医療体制を構築しています。

